

# 病院船「八幡丸」図譜

柳川 錬平

順天堂大学大学院医学研究科 解剖学・生体構造科学

## 1 はじめに

ここに、第二次世界大戦の後、長らく所在不明であった部外秘公刊戦史である『大正三、四年戦役海軍衛生史』全4巻の内、病院船「八幡丸」についての記録を収めた巻四から医療区画の画像資料を抽出して供覧する。『大正三、四年戦役海軍衛生史』は部外秘としての刊行であったため、第二次世界大戦までに本書を閲覧できたのは一部の軍衛生関係者などに限定され、敗戦後は他の陸海軍文書と共に処分されたものと思われる。昭和60年の時点で国内には「見当たらない」とされていた。従って、病院船「八幡丸」の図面や船内写真が公開されるのは、恐らく第二次世界大戦の前後を通じて本稿が初めてになるものと思われる。尚、本稿で供覧する画像資料は、昭和20年代前半に米国へ渡り、現在も米国議会図書館(The Library of Congress)に収蔵されている原本を撮影したマイクロフィルム(国立国会図書館所蔵)からの複製である。

## 2 撮影された医療区画等

本稿に収載した画像資料の内容とそれぞれの船内配置は表および図面1(艤装図)の通り。各医療区画や設備についての説明を本文中から抜粋して、以下に列記する。(原文は旧漢字カタカナ表記)

### 1) 衛生試験室=生理実験室(写真2, 図面2)

前部左舷側にあり。中央に机を据え、化学的試験用として前方に天秤其の他の台とすべき机3個を、右側および後方に戸棚を、左側に棚および流し場を備う。左右両側に出入り口あり、右方のも

のは病理実験室に通ず。

### 2) 病理実験室(写真2, 図面3)

前部右舷側に設く。出入口は左側にあり、衛生試験室を経て出入りす。前方および右側に机および腰掛を備え、前壁2個の舷窓を改造して縦長方形のものとなし、右壁在来の舷窓2個と共に金網戸、磨硝子戸、盲戸を装備し、其の他戸棚、机、氷箱、孵籠、流し場等を設く。

### 3) 手術室(写真3, 図面4)

衛生試験室ならびに病理実験室の後部にありて両舷側に跨る。床は「セメント」を舗き、四壁は白色に塗りたる板張とし、中央にハーン式手術台1基を据え、其の傍らに硝子製器械台1具を置く、前壁に接し首尾線より右側に流し場あり、器械消毒器1個を備え、左側には殺菌水製造機1具を置き、冷温殺菌水槽各1個を設く。両水槽より冷温殺菌水管を導き、左側壁中央部にある2個の手洗器に接続す。後壁の右半部に硝子製器械戸棚および木製棚を備う。右側中央および後壁の左側に扉を設け、後者を通じて手術準備室に出入す。手術室は光線の射入不十分なるも、船長室の下部に位するを以て天窓を設くること能わず。これに反し手術準備室の右方には固有の大大窓(外来診察室と共通)存在するにより、手術室を此の部に変更するを可とすれども、艤装設計既に定まり、工事の準備整えるを以て、これが変改は徒に竣工期日を遷延する虞ありとし、船長室の左右甲板に各1個の「デッキライト」を設け、又50燭光固定電燈2個および移動燈1個を増設し、不十分ながら採光を補足せり。

表 撮影された船内区画と配置

区画等の名称	画像資料		配置		
	写真	図面	甲板	舷側	首尾
1 全体図	1	1 (艤装図)			
2 衛生試験室(生理実験室)	2	2	最上	左	首
3 病理実験室	2	3	最上	右	首
4 手術室	3	4	最上	左~右	首
5 手術準備室	4	5	最上	左	首
6 患者昇降機	5	6	最上~中	左	首
7 外来診察室(第一診察室)	6	7	最上	右	首
8 X光線室	7		最上	右	首
9 軍医官事務室	8		最上	左	中
10 動物飼養箱	9		最上	不定	不定
11 培養基室	10	8	上	左	首
12 第一病室	11		上	左~右	首
	12		上	左~右	首
13 薬剤室	13	9 (蒸気製薬室)	上	右	中
	14		中	左~右	首
	15		中	左~右	首
14 第二病室(外科)	16		中	左~右	首
	17		中	左~右	尾
15 第三病室	18		中	左~右	尾
	19		中	左~中	尾
16 第四病室(伝染病)	19		中	左~中	尾
17 癲狂室	20		下	右	首
18 鉄製動揺式二重寝台	21	10			
19 載貨門	22	11 (外舷患者収容台)	中	左・右	首・尾
20 ポート・ダヴィット	23-25		最上	左	首

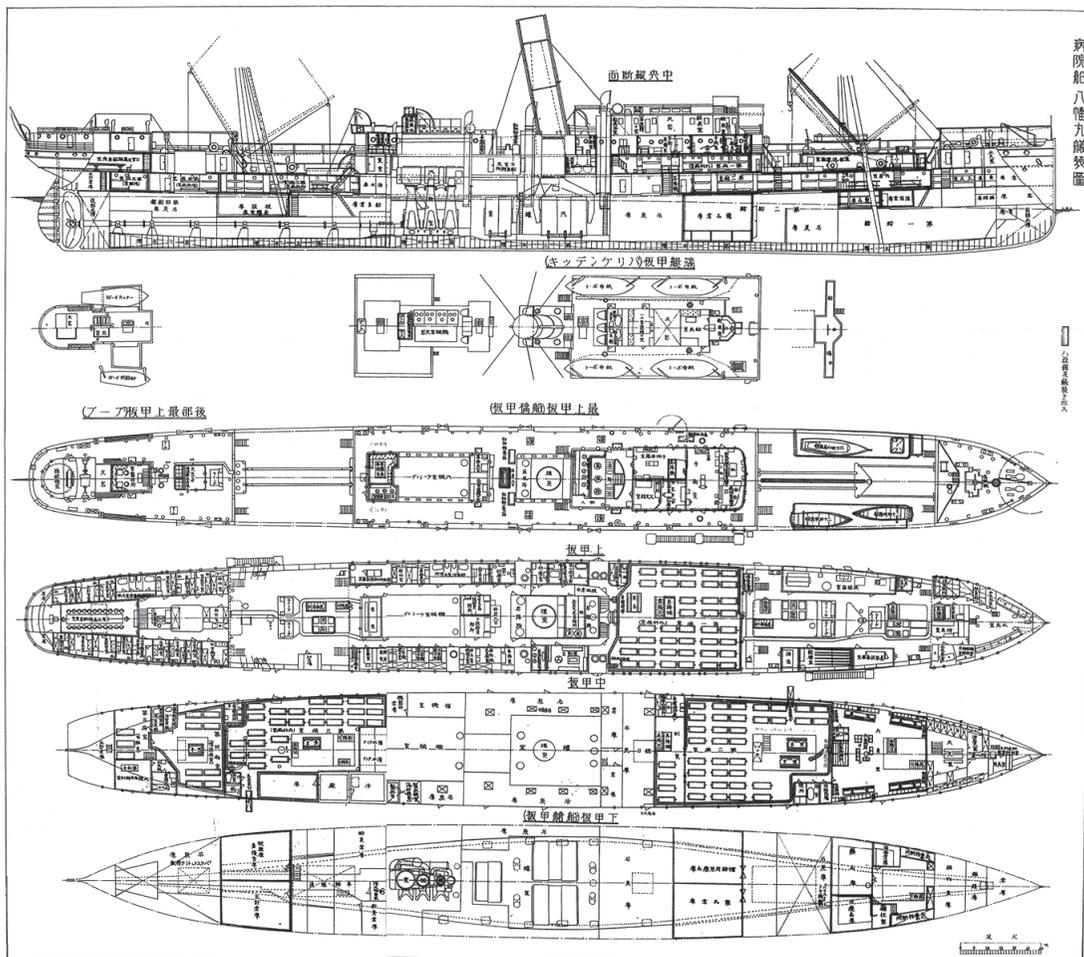
#### 4) 手術準備室(写真4, 図面5)

手術室の後方左半を占む。床および四壁は手術室に同じ, 中央に手術台を据え, 其前方床面に縦6尺5寸, 横2尺8寸の孔あり。患者用手働昇降機を備え, 上甲板第一病室および中甲板第二病室に通ず。左側後部に硝子製器械戸棚, 消毒薬瓶架, 流し場を設く。右壁に戸棚, 冷温殺菌水槽各1個を備え, 後壁に手洗器2個, 器械消毒器, 殺菌水製造器各1個を置く。前後および左壁に出入口あ

り, 各幅4尺にして, 前壁のものは手術室に通ずること既記の如し。上方に固有の大天窓あり, 光線の射入十分なり。

#### 5) 患者昇降機(手働)(写真5, 図面6)

患者用手働昇降機は手術準備室および第一病室の床面を切抜き, 四隅に径約1寸5分の鉄柱を立て, 此の鉄柱に沿って上下する寝台にして, 「ハンドウィンチ」を以て之を上下す。殆動揺なく,



図面1 艙装図

極めて安全なり。

6) 外来診察室=第一診療室 (写真6, 図面7)

手術室の後側, 手術準備室の右側前半に位す。床は「リノリウム」を張り, 前方に診察台, 左側に戸棚, 机, 腰掛, 右側に机, 腰掛および殺菌水手洗器各1個を備え, 中央に歯科用椅子1具を置く。上方には固有の大天窗ありて採光十分なり。

7) X光線室 (写真7)

外来診察室の後側, 手術準備室の右側に設く。床には「リノリウム」を張り, 四壁を黒色に塗り, 舷窓に黒色の鉛戸を設け, 前壁に接しX光線器, 配電盤および戸棚を装備し, 右側壁に近く机およ

び腰掛を置き, 中央に診察台を据え, 出入口は後壁に設く。

艙装図によれば, 本室は上甲板中部左舷側に設備することに予定しあれども, 新式器械の丈高くして該部に収容すること能わず, かつ同所は手術室に遠く不便なるを以て, 此部に変更したり。

また, X光線器は京都島津商店より直流用高圧式X光線器を購入し, 装備する予定なりしも, 同地に出張検査の結果, 故障を発見したるを以て之を止め, 呉海軍病院より感応縮線式器械を受領の上, 据付けたり。

8) 軍医官事務室 (写真8)

最上甲板中央部煙突の前部なる一等船客食器室

を以て之に充て、机、腰掛および戸棚、書架等を設け、軍医官6人執務するに足る。

### 9) 動物飼養箱 (写真9)

煙突ならびに通風路の後方左右に各1個を新設す。当初動物室を上甲板前部右(原文のまま)舷に設くる予定なりしも、培養基室に振替え、動物は移動箱に飼養することとなれり。

### 10) 培養基室 (写真10, 図面8)

上甲板左舷側最上甲板の前端に接して新設したる木造室にして、乾熱滅菌器、蒸気滅菌器、流し場、机、戸棚等を装備す。

### 11) 第一病室=外科病室 (写真11・12)

手術室、同準備室等の直下に位し、旧一等船客寝室を取払いて設けたる一大室にして、面積1950平方尺、真容積14443立法尺、甲板には「リノリウム」を張り、鉄製二重寝台39脚(床数78個)を首尾線の方向に配列す。室の後部左舷側に偏して患者用木製食卓1脚を据え、その後方後壁に接し木製机および椅子を備え、看護控席に充つ。室内中央部患者食卓の前方において長さ9尺幅8尺の艙口あり。其の後半には下甲板第二病室に通ずる階梯あり。其の前半には第二病室より本病室を経て手術準備室に通ずる患者昇降機の通路となる。該艙口の周囲には手摺を設けたれども、其の左右両側を開閉自在となし、患者の運搬に便にす。室の全周には暖房用蒸気管を繞らし、又右後隅に3馬力電動送風機を据え、送風管之より出でて室を一周し、換気用の用をなす。

艙装図によれば本病室には外科患者66人を収容するの計画なるも、第三病室(内科病室)に予定数の寝台を取付くこと能わざりし為、本室ならびに第二病室の寝台数を増加し、其の欠を補いたるなり。

### 12) 薬劑室 (写真13, 図面9)

上甲板中部右舷側第一病室の後方なる一等船客男子用便所を改造して之に充つ。前壁に接して薬品戸棚、机および投薬口を設け、内側壁には薬品

戸棚を備え、外側壁および後側壁に戸棚、薬瓶棚等を配列し、中央には調劑用卓子および流し付瓶架を置く。出入口は内側壁および後壁に各1箇所あり、後者は蒸気製薬室に通ず。

### 13) 第二病室 (写真14~16)

中甲板前部倉庫、絹物倉庫、貴重品倉庫、航海科倉庫等の区画を除去して一大室となし、送風管(電動送風機は前側壁にあり)および暖房用蒸気管を繞らし、甲板には「リノリウム」を敷くこと第一病室に同じ。左舷載貨門に患者取入口を装備し、二重寝台34脚(床数68個)を備う。後壁の中央および右側に出入口を設く。此室の後方にある予備炭庫も病室の一部分となし(別室と称す)右舷側に二重寝台4脚(床数8個)を備え、其の左方には第一病室を経て手術準備室に至る患者昇降機および第一病室に至る階梯あり。中央部には食卓2脚を備え、左舷側に接し一小室を設け看護控所兼包帯交換所に充つ。両室を合し第二病室の総面積2720平方尺、真容積19992立法尺852、総床数76個なり。艙装図によれば本室は外科患者66人を収容する設備をなす計画なれども、第一病室と同様第三病室に於ける予定床数減少のため、上記の如く変更せるものなり。

### 14) 第三病室=内科病室 (写真17・18)

後部第三艙口の左側および後方にある機関部員室および倉庫の区画を取り払いて設けたる一大室にして、甲板には「リノリウム」を張り、送風管、暖房用蒸気管を設備すること第一、第二病室と大差なく、鉄製二重寝台26脚(床数52個)を備う。中央に木製食卓1脚を据え、其の後方左舷に看護控所、右舷に本室患者用浴室厠および患者取入口を設く。面積1360平方尺、真容積9522立法尺88なり。艙装図によれば本室には内科患者76名を収容するの計画なれども、其の右側に冷蔵庫ありて広大な容積を占め、而も之を他に移動すること困難なるを以て、予定数の寝台を取付くこと能わず。既記の如く第一、第二病室の寝台数を増加し、内科患者多数の場合には其の一部を第二病室に収容するの設備に改めたるなり。

## 15) 第四病室＝伝染病室（写真19）

第三病室の後方に設く。甲板には「リノリウム」を張り、換気および暖房装置を施すこと他病室に同じ。鉄製二重寝台8脚（床数16個）を2列に配列し、其の中間に木製食卓を備う。浴室および厠は左舷後部にあり。右舷後部には看護控所を設く。本室は後日南洋方面行動の際結核病室に変改せり。面積936平方尺13、真容積6365立法尺725なり。

## 16) 癡狂室（写真20）

第一船倉右舷衣囊格納所の後方に設く。天井および四壁は帆布を以て蔽い、壁板と帆布との間には毛屑を入れ、床には畳を敷き、便所は前壁左側に於いて前方に突出せる部にあり、便器を外部より出入し得る様設備す。

## 17) 寝台（写真21、図面10）

対独戦時編制実施心得書に拠れば病院船八幡丸の病床は鉄製二重寝台100脚、鉄製単装寝台20脚、総数220床なるも、実際に於いては下士卒病室を通じて日露戦役当時の鹵獲品（露国病院船「アンガラ」に装備のもの）なる鉄製動揺式二重寝台114脚を備え、士官病室に鉄製固定二重寝台5脚を装備せるを以て、総数238床となれり。

## 18) 載貨門（写真22、図面11）

第二、第三病室の両舷側に於いて各1個宛、計4個の載貨門あり。其の下縁は水面上4尺乃至5尺の高さにあり。之より患者を取容する為に長さ8尺、幅2尺4寸の長方形鉄枠製台を設け、其の3分の2を載貨門より舷外に出し、内端は船内に於いて病室甲板に螺定し、以て該台を水平位に保持す。台上に滑動するよう装置したる長さ5尺、幅2尺5寸5分の担架あり。患者およびその衣囊ならびに携帯品等の出入に便にす。本装置は主として海上平穩なる時に使用し、重症患者、伝染病

および同疑似症患者等の取容に至便なりき。

## 19) ポート・ダヴィット（写真23～25）

最上甲板左舷手術準備室の扉前に於いて、「ハンドレール」の取外し自在なる部を選び、其の直上「ポート」甲板にある「ポートダヴィット」を利用し、之に鉄板製吊架（長さ6尺2寸5分、幅3尺）を懸垂し、絞轆を用いて徐々に昇降す。吊架の四隅には「ガイ」を取付け、外方2条の「ガイ」は舷側に横付せる患者運搬船に於いて保持し、他の2条には本船上甲板に於いて配員し、吊架の昇降に従い適宜之を伸縮して、動揺のため吊架の舷側に衝突するを防ぐ。

## 主要参考文献

原剛. 陸海軍文書について. 戦史研究年報 2000; 3: 109-119

敗戦後に陸海軍文書が如何に処理されたかについて検証した論稿。

海軍軍令部. 大正三, 四年戦役海軍衛生史 卷四. 東京: 海軍軍令部; 1918 (米国議会図書館所蔵. マイクロフィルムは国立国会図書館所蔵)

病院船「八幡丸」についての記録を収載する唯一の公刊戦史。

海軍省医務局. 大正三, 四年戦役海軍医務衛生記録 卷五. 東京: 海軍省医務局; 1917-9 (陸上自衛隊衛生学校所蔵)

巻末の『大正三, 四年戦役海軍衛生史』との対照目次で、病院船「八幡丸」に関する記録が『大正三, 四年戦役海軍衛生史』のみに収載されていることを示す。

田中宏巳. 米議会図書館所蔵占領接收旧陸海軍資料総目録. 東京: 東洋書林; 1995. p. 322

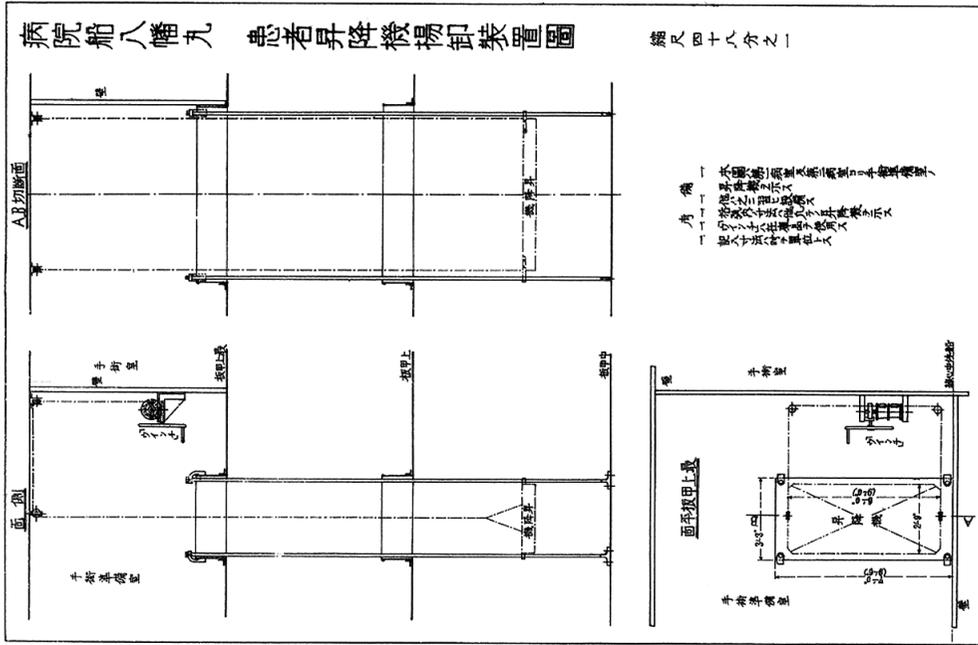
敗戦後に接收された他の陸海軍資料とともに『大正三, 四年戦役海軍衛生史』の全4巻も米国議会図書館に収蔵されていることを示す目録。

柳川鍊平. 日独戦役における海軍病院船「八幡丸」の医療活動. 日本医史学雑誌 2017; 63: 407-426

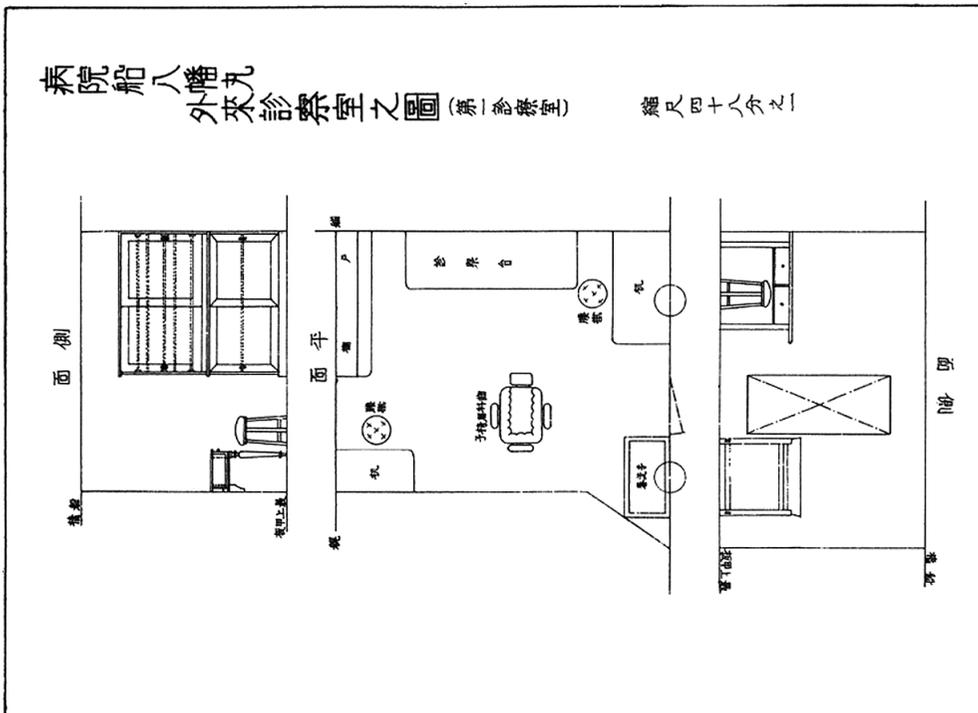
病院船「八幡丸」の実像を解明し、その海軍医療史における位置づけを試みた論稿。







図面 6 患者升降機



図面 7 外来診察室





丸 幡 八 船 院 病

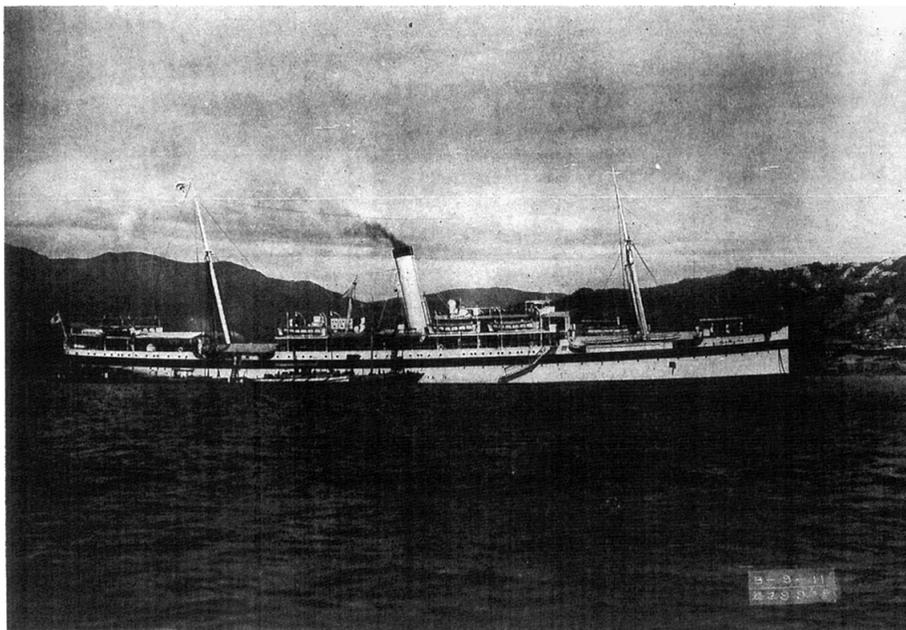


写真1 全体図

室 験 實 理 病 及 (室 験 代 理 生) 室 験 試 生 衛 (一第寫船院)

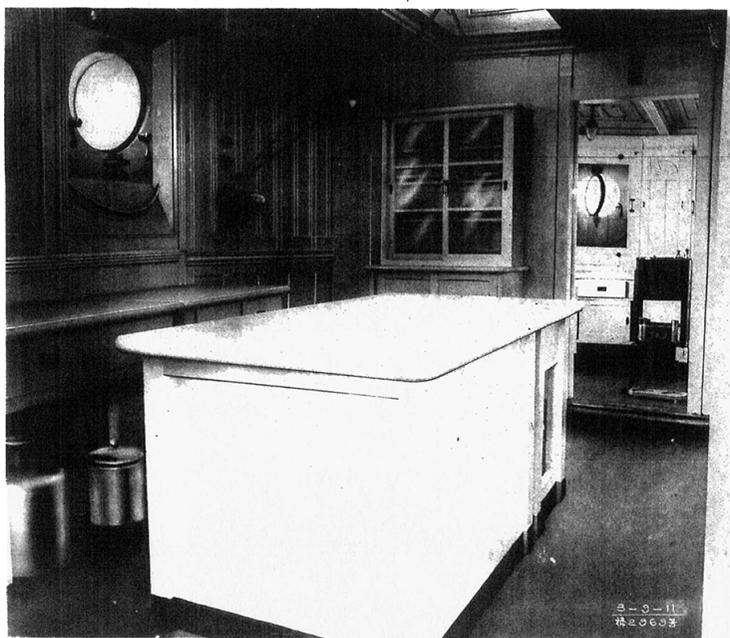


写真2 衛生試験室および病理実験室

室 術 手 (二第寫船院)

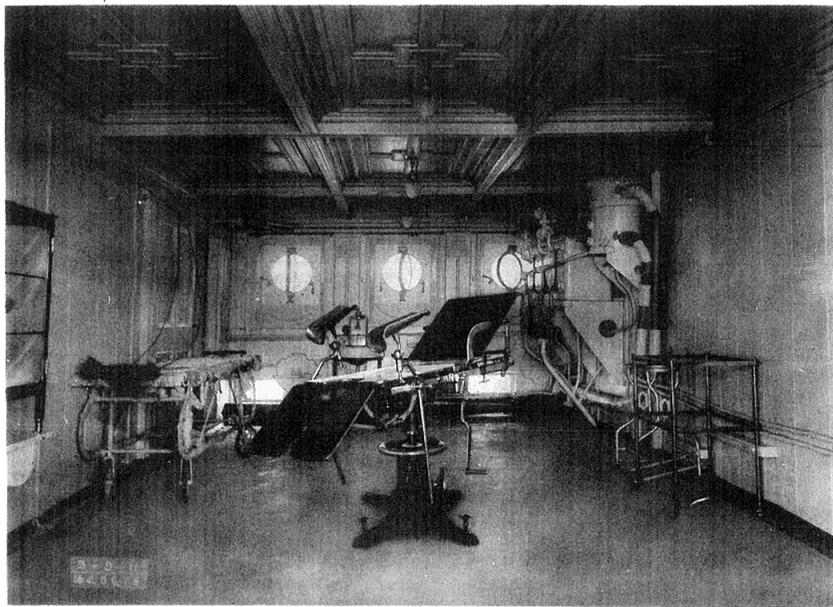


写真3 手術室

室 備 準 術 手 (三第寫船院)

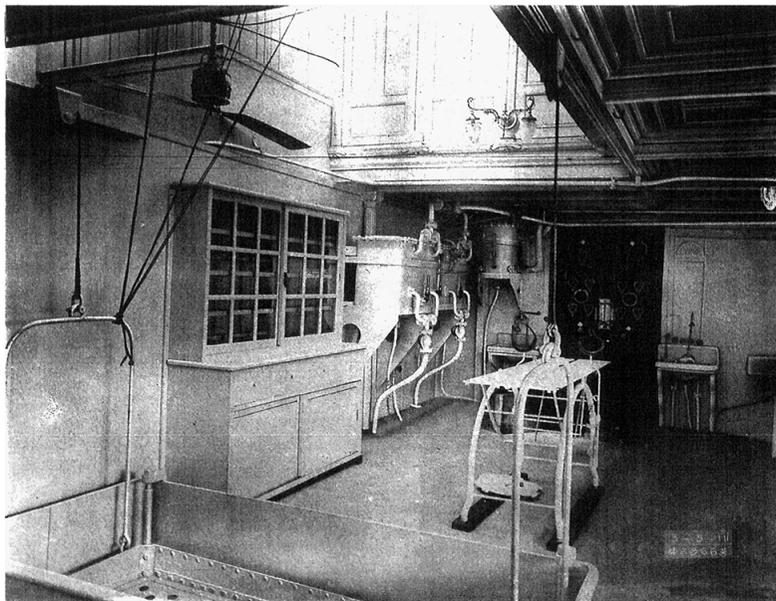


写真4 手術準備室

(働手) 機降昇者患 (四第寫船院)

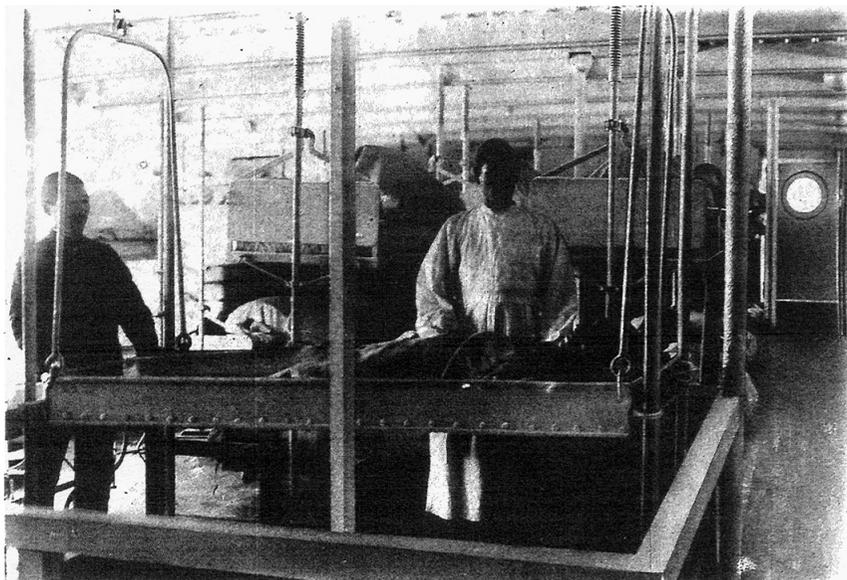


写真5 患者昇降機

(室療診一第) 室察診來外 (五第寫船院)

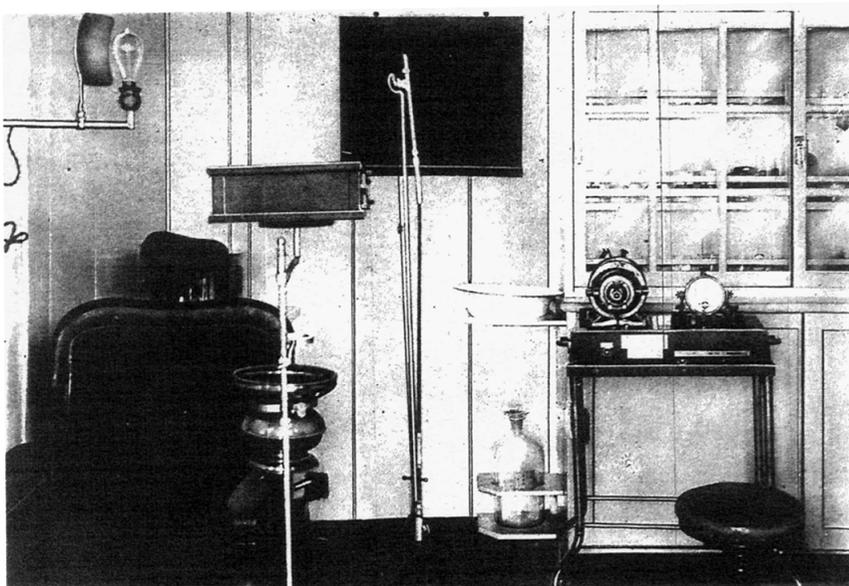


写真6 外来診察室 (第一診療室)

室 線 光 X (六第寫船院)

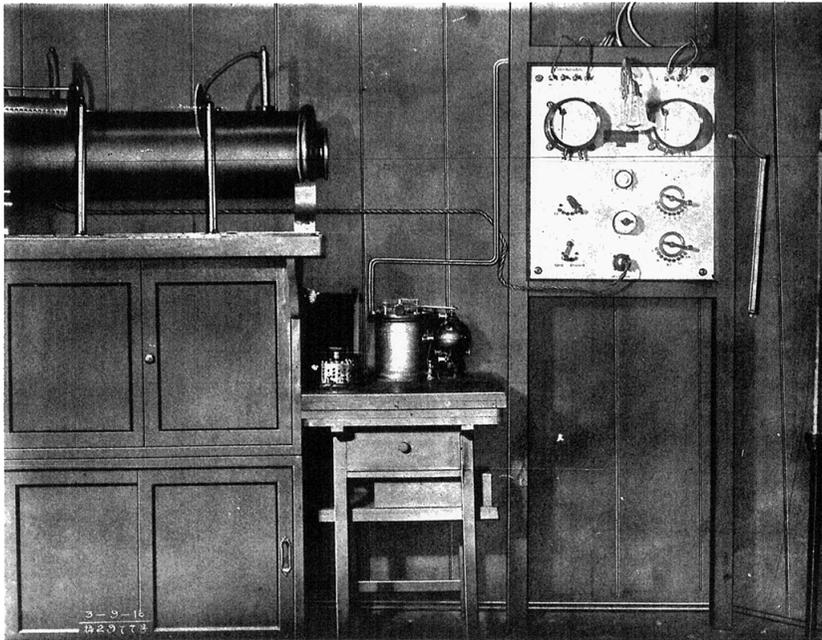


写真7 X光線室

室 務 事 官 醫 軍 (七第寫船院)



写真8 軍医官事務室

箱 養 飼 物 動 (八第寫船院)

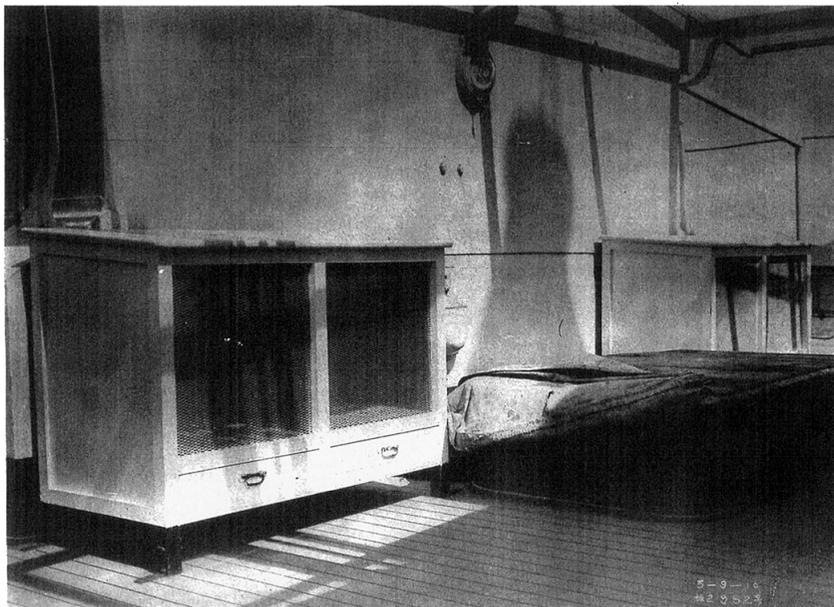


写真9 動物飼養箱

室 基 養 培 (九第寫船院)

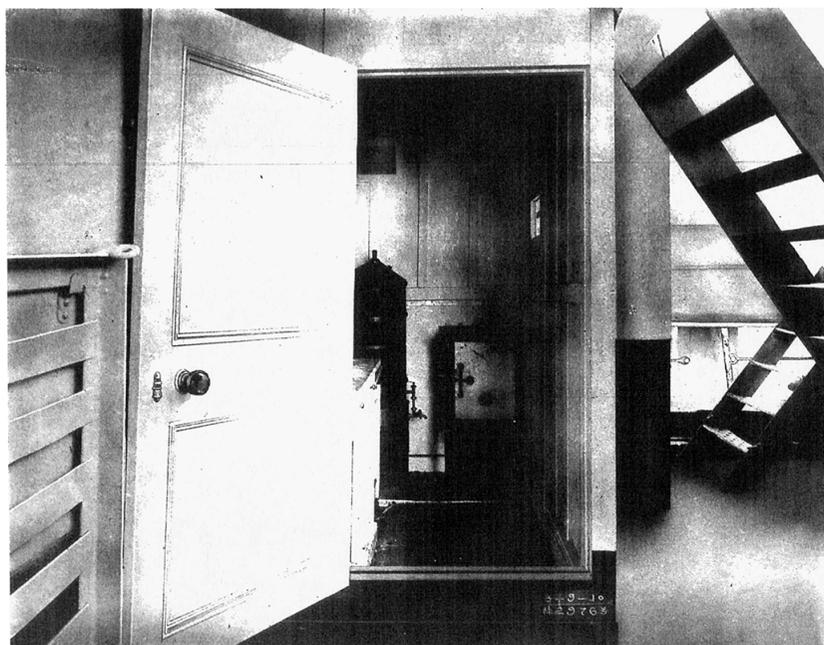


写真10 培養基室

(室病科外) 室 病 一 第 (十第寫船院)

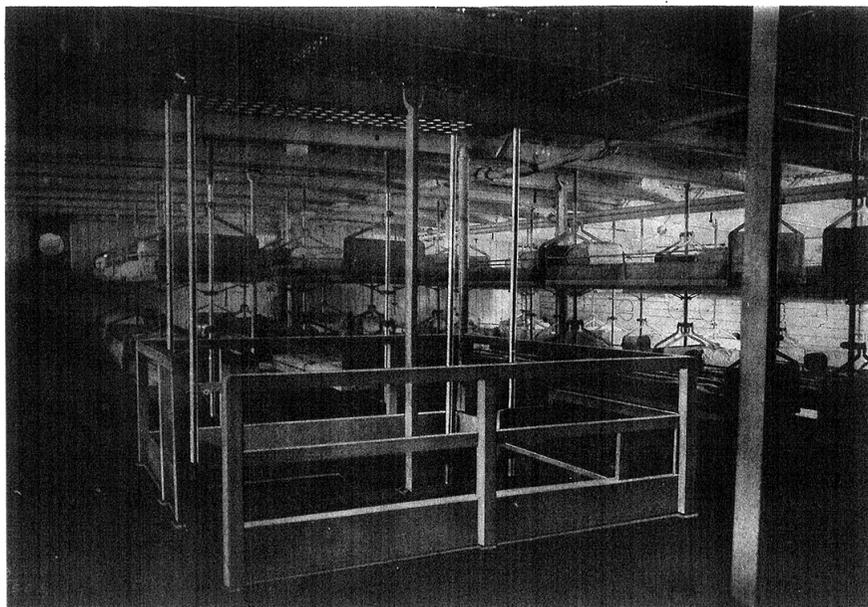


写真11 第一病室

(容收者患) 室 病 一 第 (一十第寫船院)

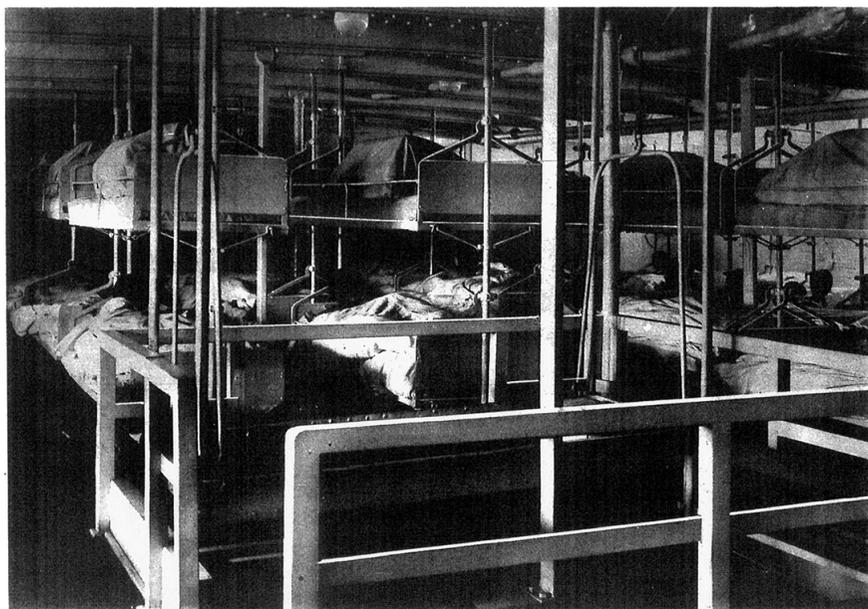


写真12 第一病室

室 劑 藥 (二十第寫船院)

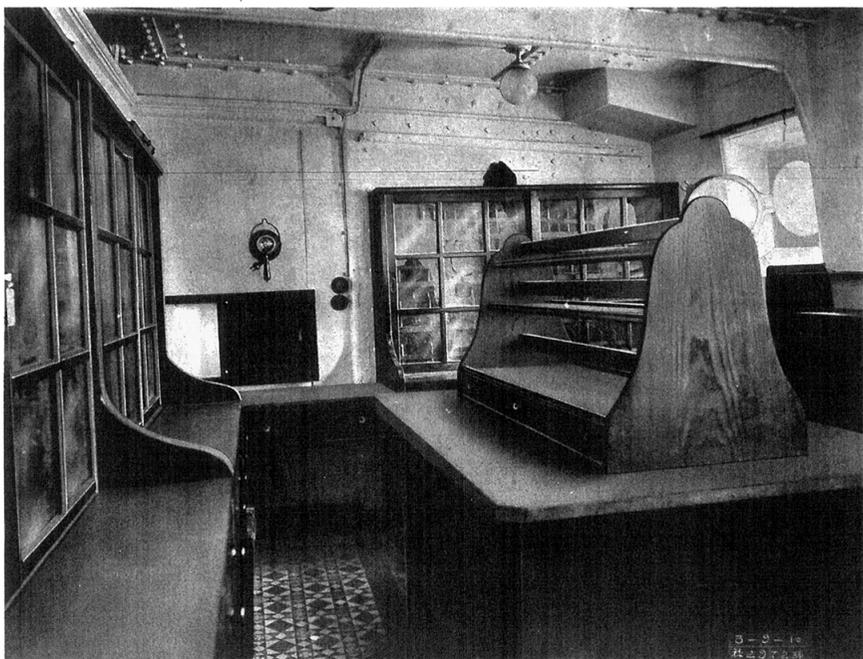


写真13 藥劑室

(室病科外) 室 病 二 第 (三十第寫船院)

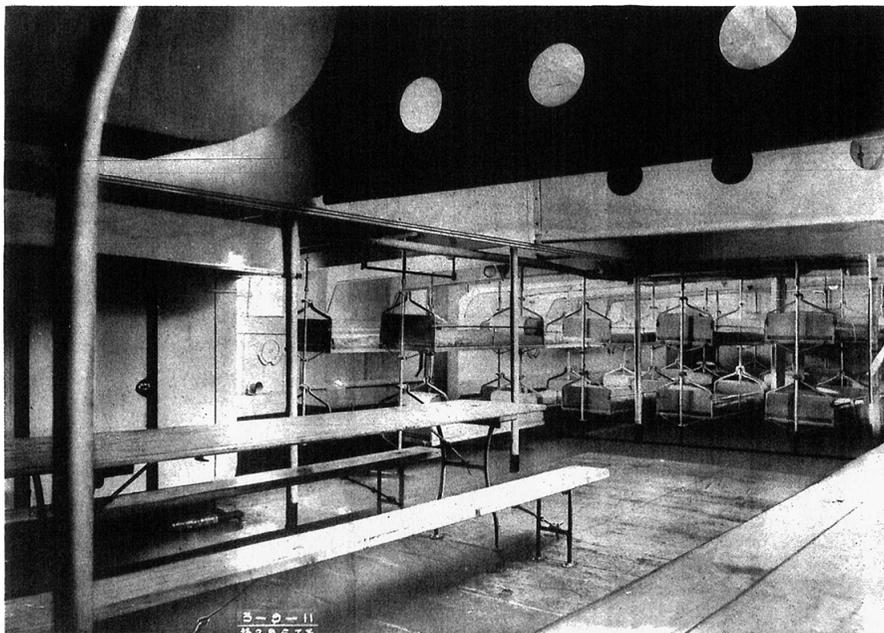


写真14 第二病室

(容収者患病染傳) 室 病 二 第 (四十第寫船院)

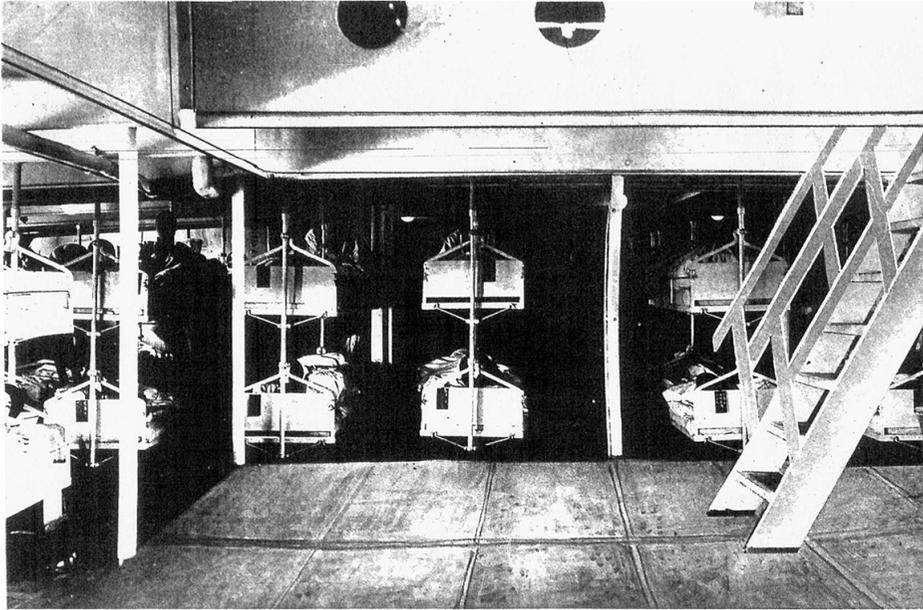


写真 15 第二病室

室 別 室 病 二 第 (五十第寫船院)

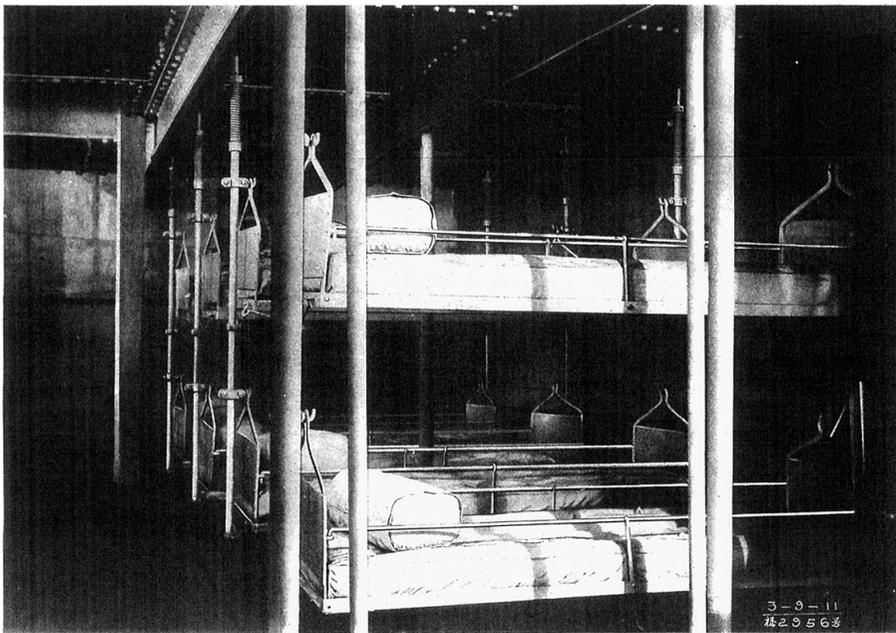


写真 16 第二病室別室

(内科科内) 室 病 三 第 (六十第寫船院)

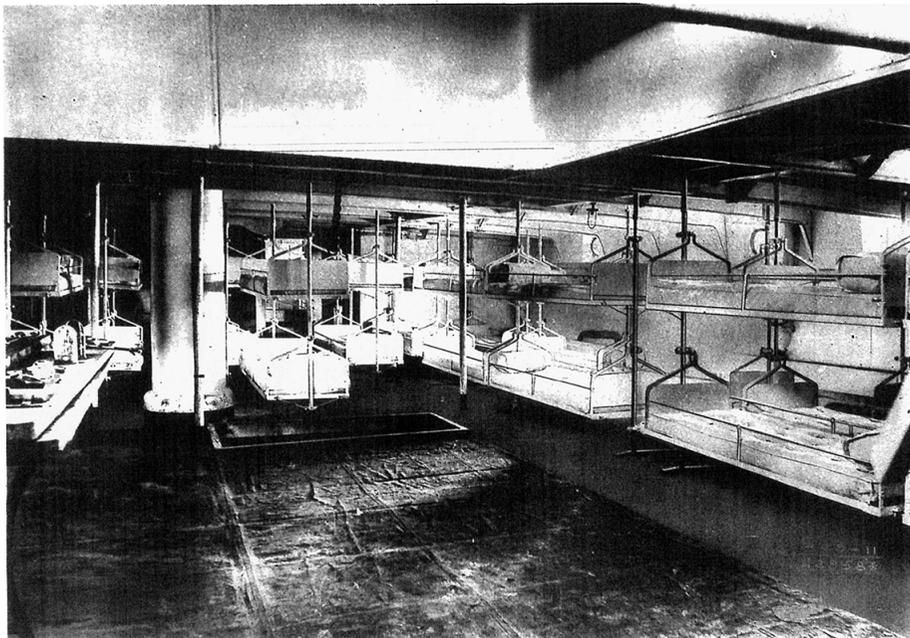


写真 17 第三病室

(容收者患) 室 病 三 第 (七十第寫船院)

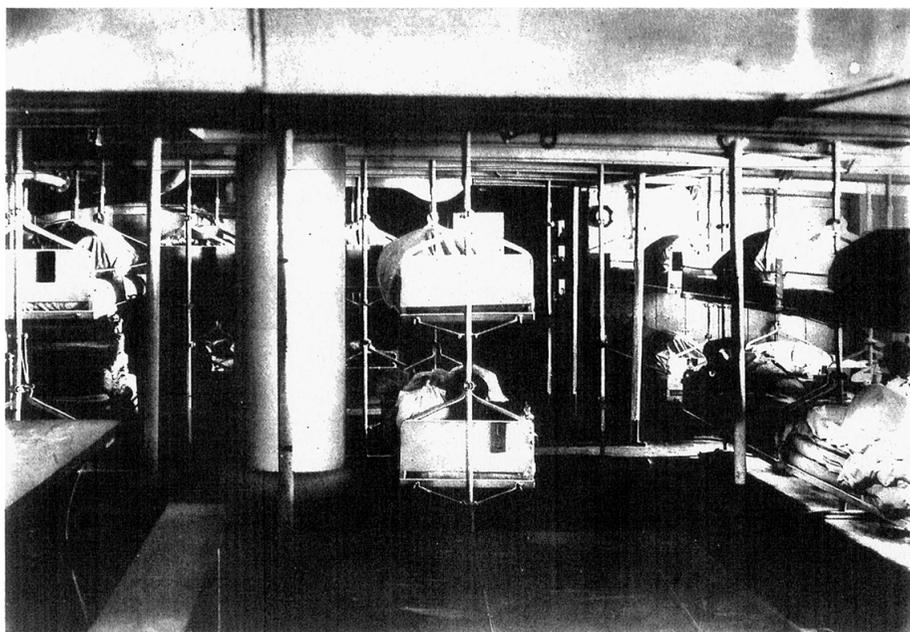


写真 18 第三病室

(密病染傳) 室 病 四 第 (八十第寫船院)

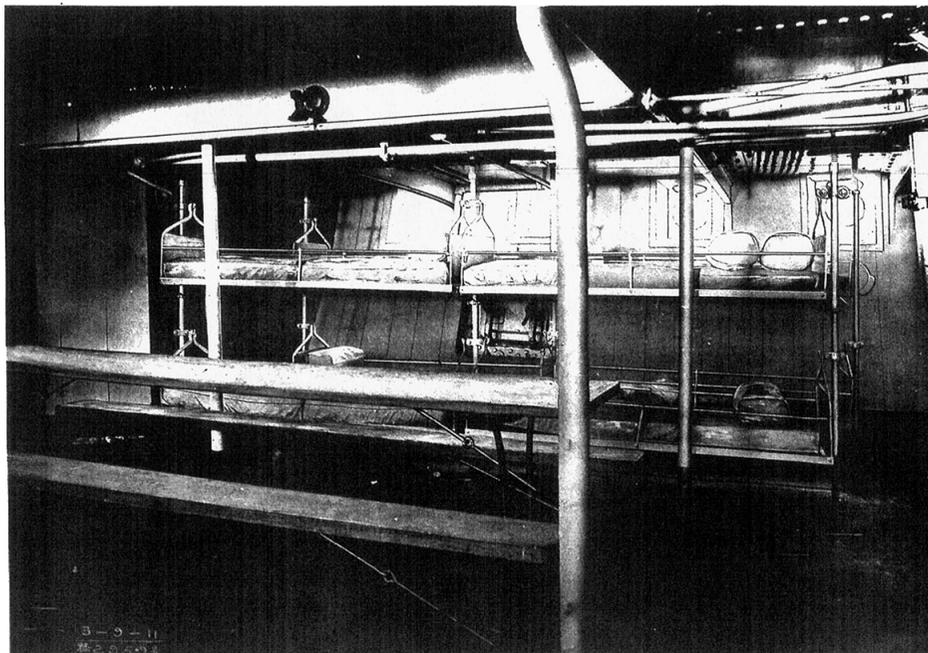


写真19 第四病室

室 狂 癲 (九十第寫船院)

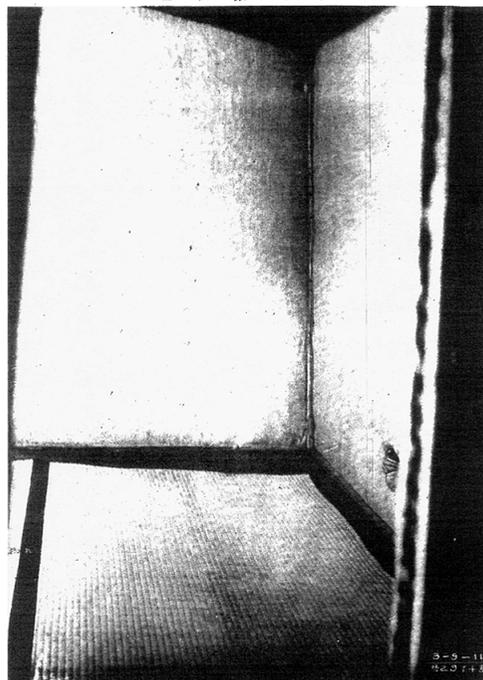


写真20 癲狂室

(品覆函役戦露口) 臺寝重二式搖動製鐵 (十二第寫船院)

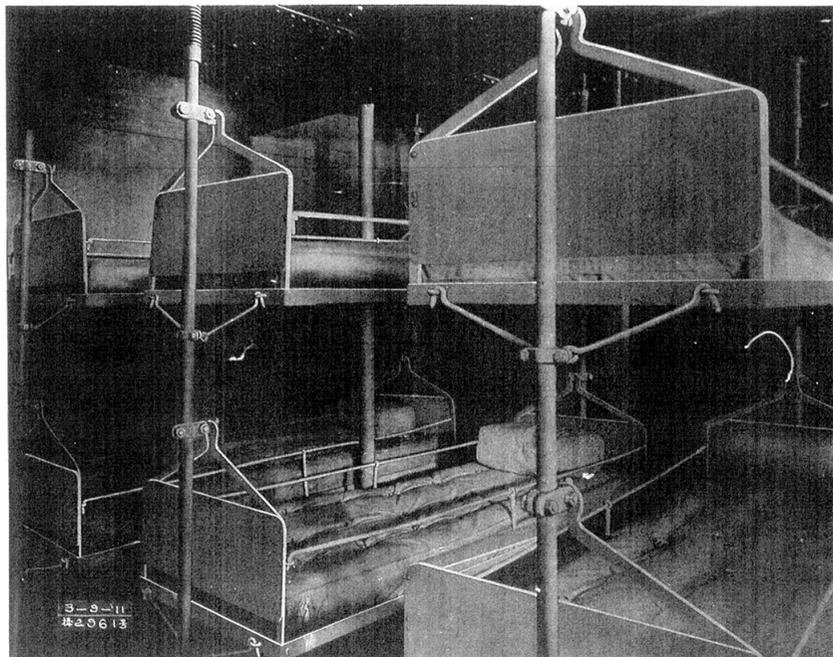


写真21 鉄製動揺式二重寝台

置裝入出者患ノスヲヨ門貨載 (一十二第寫船院)



写真22 載貨門

置装入出者患ルス用利ヲ「トッピダ、トーボ」 (二十二第寫船院)

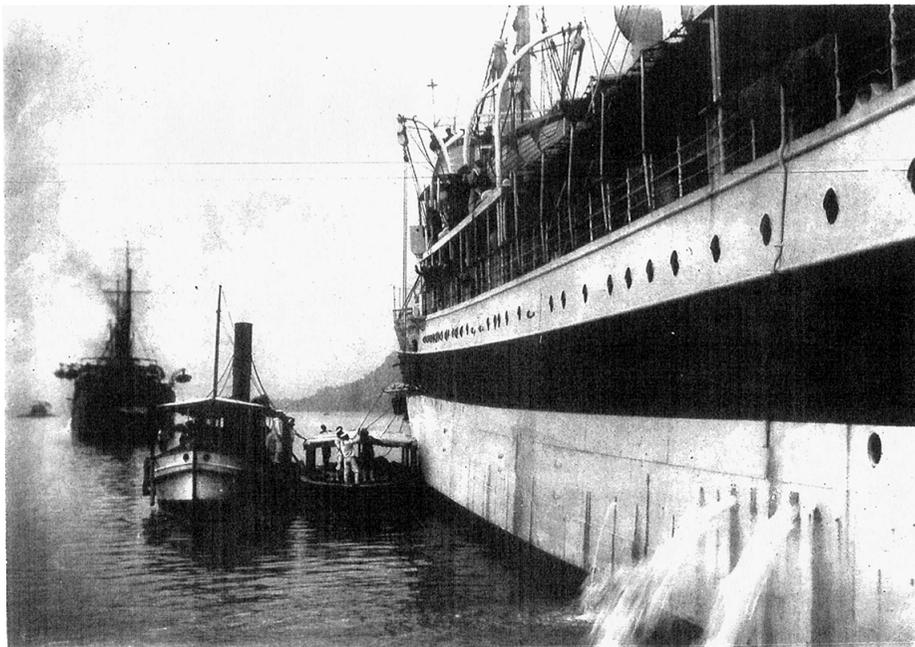
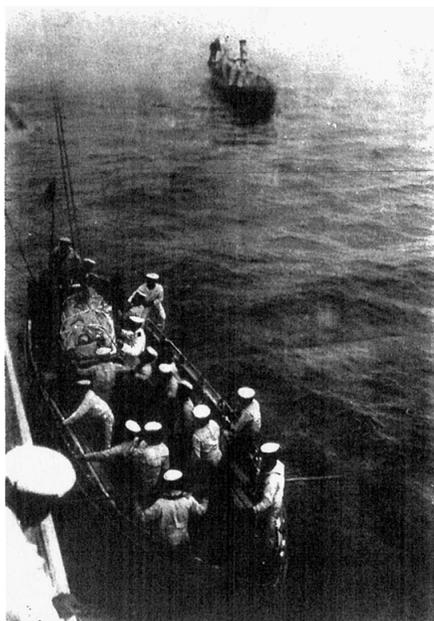


写真23 ポート・ダヴィット

同

(四十二第寫船院)



景光ルス容收=丸幡八船院病ヲ者傷戰艦英(三十二第寫船院)



写真24・25 ポート・ダヴィット